

## 年賀状

平成25年のお正月、実家に帰省し小中学校の同窓会へ参加し、自宅に戻ってくるとたくさんのお年賀状が届いていた。届いたお年賀状に顔をほころばせながら見ていると、流れるような文字で書かれたお年賀状があった。それは私が小学校1年生のときの先生からのものだった。

小学校、中学校、高校、社会人となってからも先生とのお年賀状のやりとりはあったが、数年前から先生のお年賀状が届かなくなり音信不通となっていた。先生への懐かしさと嬉しさで、先ほどまで同窓会で当時の友達と一緒にいたという偶然、ものすごいタイミングの良いお年賀状に興奮し、すぐに当時同じクラスだった友人に電話した。

どうやら先生のお年賀状によると、今年88歳の米寿を迎えるらしい。そのことを友人に話すと、先生の米寿のお祝い会をしようとすぐに話がまとまり会の計画をした。準備期間や先生の体調などを考慮して暖かくなった春に開催しようとなった。

平成25年4月、小学校の体育館で「先生の米寿をお祝いする会」が始まった。何も聞かされず、小学校体育館に連れてこられた先生は本当に驚かされていた。

先生にまず名簿を渡し、まずは点呼確認から始まった。先生に名前を一人一人呼ばれながら、大人になった私たちは、みな大きな声で「ハイ。元気です。」と返事をした。当時の写真と現在の写真をおりまぜて作成したビデオをみんなで笑いながら鑑賞した。

生徒を代表して、友人が毎年届いていたお年賀状で、「大学受験の年、大変だろうけど体が一番。体を休めて早く寝なさいというようなことが書いてあった。先生でありながら、祖母のような応援をしてくれていることが大変嬉しかった。」というような話をした。

私も先生からくるお年賀状には、先生であるけれどもどこか祖母からのような心温まるお年賀状のやり取りが大好きで、友人の話にじんわりと込み上げてくるものがあった。

先生は当時の様子をととても懐かしそうに話をしていた。当時、進級した私たちは放課後になると、先生のいる教室に来てなかなか帰らなかったこと。友人は、家でとれた竹の子をたくさん教室に持ってきてくれたこと。たわいもない日常の出来事が先生の心の中に残っていた。当時とは少し様変わりした小学校と先生と私たちは「みんな懐かしいね。」と笑顔で写真に納まった。

翌年、「結婚はしていないけれども住所が変わりました。」と先生からお年賀状が届いた。

横山 雅美  
(一般)